

2021
第1号

2021年5月発行

あすか通信

ASCA 株式会社 文化財サービス
ASSISTANT SERVICE FOR CULTURAL ASSETS

■本社
〒612-8372
京都府京都市伏見区
北端町58番地
TEL: 075-611-5800
http://bunnkazai.co.jp/



測量

山奥の巨大石仏！

～弘法大師が彫刻したと伝わる磨崖仏を最新技術で測る～



令和2年7月、京都府笠置町 しかさぎさんかさぎでら 鹿鷲山笠置寺において、でんこくぞうまがいぶつ 伝虚空蔵磨崖仏の測量作業を行いました。全高12mにおよぶ巨大石仏の測量は、ドローン撮影によるフォトグラメトリの技術を用いました。SfMソフトウェアでの3D解析の結果、現地では仰ぎ見ることしか出来ない磨崖仏をあらゆる角度から観察することができ、陰影表示した伝虚空蔵磨崖仏の線彫りも鮮明に確認することができます。



ドローン撮影の様子



空中写真



陰影図

遺物整理

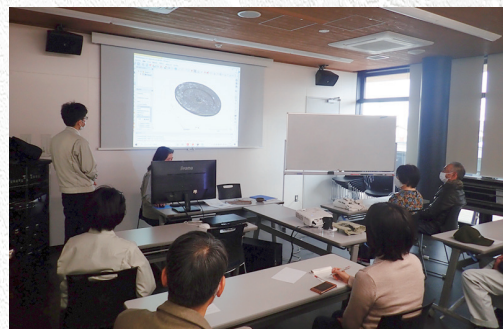
『見たい！知りたい！3次元モデル

～文化財の現場から～』考古学セミナー実施



令和3年3月、奈良県田原本町の からこ 唐古・ かぎ 鍵遺跡史跡公園にて、『見たい！知りたい！3次元モデル～文化財の現場から～』をテーマとした考古学セミナーを行いました。内容は、遺構・遺物両方の側面から、3次元モデルを使って何をしているのかを紹介し、3次元モデルの今後の可能性についてもお話をさせていただきました。

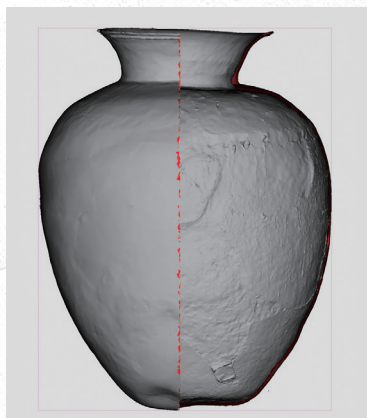
遺物では主に大甕を例に紹介しました。大きいために見ることが難しい内面の観察ができるようになったほか、今までは計算して量っていた容量も3次元モデルでは簡単に量ることができるようになりました。他にも陰影図の作成によって、形を明確に浮き出させることができます。また、従来の遺物実測についても触れ、遺物実測の分野においてはアナログ作業が基本であることも説明をしました。



会場の様子



3Dモデル（外面・内面）



陰影図（外面・内面）



遺物実測（拓本）

発掘調査

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡 発掘調査



令和2年7月から9月まで、京都駅の南側において平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡の発掘調査を行いました。調査地の周辺は平安時代後半から本格的な宅地開発が進み、平安時代後半～鎌倉時代には多くの邸宅が立ち並びます。本調査地の位置する左京九条三坊八町跡においても、これまでの調査で仏堂の可能性のある礎石建物が検出されています。

今回の調査では、平安時代～江戸時代の遺構や遺物が確認されました。中心となるのは本格的な宅地開発が進む鎌倉時代前半(13世紀代)の遺構や遺物です。遺構は柵・溝・井戸・土坑などを検出しました。これらは、出土遺物の年代観や、遺構の先後関係から3時期に細分され、宅地利用の変遷が伺われます。室町時代以降は東西・南北方向の耕作溝が中心となり、調査地一帯は耕地化していったようです。

遺物は、鎌倉時代前半の土師器の皿、須恵器の鉢、瓦器の鍋釜といった生活雑器が中心ですが、輸入品である青磁や白磁の椀皿類や白磁の壺なども出土しています。輸入品には、中国の吉州窯で焼かれた天目茶碗や、産地は不明ですが花卉をあしらった青白磁の茶托といった高級品もあります。吉州窯産天目茶碗は表面が鼈甲状のまだら模様を呈する玳皮天目たいひてんもくと呼ばれる非常に珍しいものです。これらの出土遺物は、宅地居住者について考える上で重要な遺物です。



玳皮天目碗出土状況



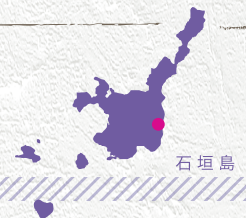
青白磁の茶托



玳皮天目碗

沖縄

約2万7千年前、 完新世代の人骨のレプリカ制作

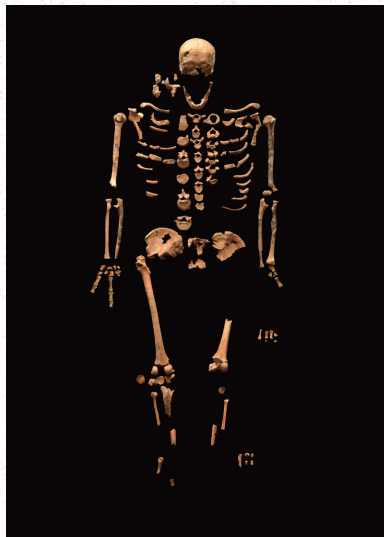


石垣島

沖縄県石垣市に所在する白保竿根田原洞穴遺跡しらほさおねたばるから出土した人骨のレプリカ制作を行いました。平成30年度～令和2年度までに、全身の骨がほぼ揃っている約2万7千年前の4号人骨のほか2号人骨・3号人骨の制作を行い、制作には原資料からの型取りと3Dプリンターによる出力を併用しアクリル絵具で彩色を施しています。



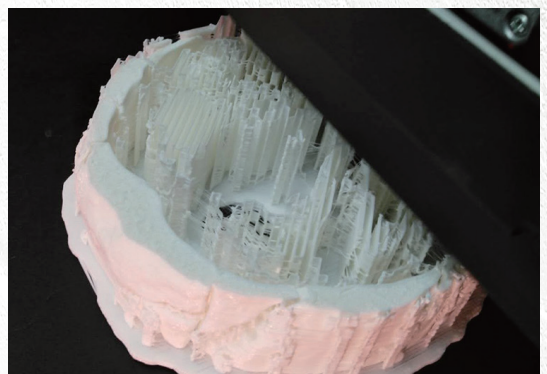
彩色作業状況



4号人骨



3号人骨



3D データ出力状況